公　開
資料３

第３８２回　幹　事　会
公　開　審　議　事　項

令和７年３月３１日

日　本　学　術　会　議

公　開　審　議　事　項

件名・議案		提案者	資料（頁）	提案理由等（※シンポジウム等、後援関係については概要を記載）	説明者	根拠規定等
Ⅲ　公開審議事項						
１．規則関係						
提案１	「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」の一部を改正すること	会長	4	「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」について、旅費に関する規定等所要の改正を行う必要があるうため。	会長	―
２．委員会関係						
提案２	（機能別委員会） 国際委員会 分科会委員の決定 （追加１件）	会長	8	国際委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	日比谷副会長	内規第18条
提案３	（分野別委員会合同分科会） (1)第三部合同分科会を設置すること（新規設置１件） (2)第三部合同分科会委員の決定（新規１件）	第三部長	9	第三部理工系博士人材育成分科会を設置するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。	第三部長	(1)会則27条１項、第79回幹事会決定「部が直接統括する分野別委員会合同分科会について」 (2)内規18条
提案４	（分野別委員会） (1)運営要綱の一部改正（新規設置２件） (2)分科会委員の決定（追加1件） (3)小委員会の委員決定（新規２件、追加２件）	(1)総合工学委員会委員長、電気電子工学委員会委員長 (2)第一部長 (3)第二部長、第三部長	11	小委員会の設置に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分科会委員及び小委員会委員を決定する必要があるため。	第一部長、第二部長、第三部長	(1)会則27条１項 (2)(3)内規18条
３．協力学術研究団体関係						
提案５	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	16	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本自律学習学会 ②一般社団法人　日本ねじ研究協会 ※令和７年３月31日現在2,194団体（上記申請団体を含む）	三枝副会長	会則36条
４．国際関係						
提案６	令和７年度代表派遣について、実施計画に基づき10−３月期の会議派遣者を決定すること	会長	17	令和７年度代表派遣について、実施計画に基づき10－３月期の会議派遣者を決定する必要があるため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規19条２項
５．学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和７年度第２四半期】						
提案７	学術フォーラム 「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢：地球惑星科学の国際連携・国際協調のこれまでとこれから」の開催について	地球惑星科学委員会委員長	19	主催：日本学術会議 日時：令和７年７月12日（土）13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） **※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要**	―	内規別表第２

提案８	公開シンポジウム「Soil Healthとは？： 土壌の健康の理解・維持向上・共有」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	23	主催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会 日時：令和７年７月26日（土）10:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） **※第二部承認**	―	内規別表第２
提案９	学術フォーラム「多層多軸連関で捉えて対策する心血管・腎・代謝症候群」の開催について	臨床医学委員会委員長	27	主催：日本学術会議 日時：令和７年９月13日（土）13:00～17:00 場所：オンライン開催 **※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要**	―	内規別表第２

６．その他のシンポジウム等

提案10	公開シンポジウム「続・動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの！？」の開催について	食料科学委員会委員長	31	主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会 日時：令和7年5月17日（土）13:00～15:20 場所：オンライン開催 **※第二部承認**	―	内規別表第２
提案11	公開シンポジウム「国民皆歯科健診の意義を考える」の開催について	歯学委員会委員長	33	主催：日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会、歯学委員会基礎系歯学分科会、歯学委員会臨床系歯学分科会 日時：令和７年５月17日（土）15:00～16:30 場所：キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）（長野県松本市） **※第二部承認**	―	内規別表第２
提案12	公開シンポジウム「地名標準化の現状と課題―UNGEGNの活動を理解し日本の地名を考える―」の開催について	地域研究委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	35	主催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会、地球惑星科学委員会IGU分科会 日時：令和７年５月24日（土）13:00～17:00 場所：オンライン開催 **※第一部、第三部承認**	―	内規別表第２
提案13	公開シンポジウム「生活習慣がその発症・進行に関与する疾病予防のための最適な社会環境づくりと多様な担い手による支援」の開催について	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	38	主催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会 日時：令和７年５月24日（土）15:50～18:30 場所：佐賀大学医学部臨床大講堂（佐賀県佐賀市）（ハイブリッド開催） **※第二部承認**	―	内規別表第２
提案14	公開シンポジウム「人口減少社会における小規模分散型社会の実現－地域総合農学の視点から－」の開催について	農学委員会委員長	41	主催：日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会 日時：平成7年６月６日（金）13:00～16:00 場所：オンライン開催 **※第二部承認**	―	内規別表第２
提案15	公開シンポジウム「デザインをめぐる知の構築と社会的理解に向けて」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	43	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会 日時：令和７年６月６日（金）13:00～17：10 場所：オンライン開催 **※第三部承認**	―	内規別表第２
提案16	公開シンポジウム「これからの森林管理－木材生産と生態系保全の両立を目指して－」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長、環境学委員会委員長	46	主催：日本学術会議農学委員会林学分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同生態科学分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会 日時：令和７年６月７日（土）13:00～15:30 場所：オンライン開催 **※第二部承認**	―	内規別表第２

提案17	公開シンポジウム「第２回「ケア・イノベーションの最前動向」」の開催について	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	48	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会、健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会 日時：令和７年６月22日（日）13:00～16:00 場所：オンライン開催 **※第二部承認**	—	内規別表第２
提案18	公開シンポジウム「昆虫科学はおもしろい～国際昆虫学会議を終えて未来の昆虫科学者たちへ～」の開催について	農学委員会委員長	52	主催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会 日時：令和７年６月28日（土）13:00～17:00 場所：オンライン開催 **※第二部承認**	—	内規別表第２
提案19	公開シンポジウム「2024年実施選挙と政党体制」の開催について	政治学委員会委員長	55	主催：日本学術会議政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会 日時：令和７年６月29日（日）14：00～ 16：00 場所： オンライン開催 **※第一部承認**	—	内規別表第２
提案20	公開シンポジウム「第１4回形態科学シンポジウム「生命科学の魅力を語る高校生のための集い：分子の視点で解き明かす病気のメカニズム」」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	57	主催：日本学術会議基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会 日時：令和７年８月23日（土）14:00～17:00 場所：東京大学医科学研究所・講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） **※第二部承認**	—	内規別表第２

７．後援

提案21	国際会議の後援をすること	会長	59	以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・第７回革新的エネルギー材料・プロセス国際会議	—	国際学術交流事業に関する内規39条
提案22	国内会議の後援をすること	会長	60	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・日本地球惑星科学連合2025年大会 ・2025年度「土と肥料」の講演会 ・第14回JAGI/GSCシンポジウム	—	後援名義使用承認基準３（２）ウ

８．その他

	件名	資料(頁)
参考	**今後の予定** 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は第194回総会期間中に開催予定。	61

提案１

日本学術会議分野別委員会及び分科会等について（平成 20 年 10 月 23 日日本学術会議第 67 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改　正　後	改　正　前
Ⅰ～Ⅲ　（略） Ⅳ　会議の開催、手当・旅費について ①～⑥　（略） ⑦　委員会等に出席された委員には旅費が支給されます（小委員会は支給されません）。航空機を使用された場合には領収書及び搭乗券（半券）、有料宿泊施設に宿泊した場合には領収書を速やかに事務局に御提出ください。 （削除） ・航空機のプレミアムクラス、ファーストクラス、クラスＪ料金は支給されません。利用された場合、当該料金は自己負担となります。 ・航空券の購入に当たっては、可能な範囲で割引航空券等を御利用ください。 ・航空券等は会議開催通知受領後に購入願います。 ・午前中から会議が開催される場合で、原則、用務地から 400km を超える地域を出発地とするときは、前泊が認められます。 ・会議の終了予定時刻が午後６時以降の場合で、原則、用務地から 400km を超える地域を到着地とするときは、後泊が認められます。 ・有料宿泊施設に宿泊した場合には、宿泊内容に夕食と朝食が含まれているかを確認いたします。 ⑧～⑪　（略） ⑫　委員会等の出席に係る旅行完了の日の翌日から起算して１４日以内に、旅費支給に関係する次の必要書類 （１）・（２）　（略） （３）領収書（有料宿泊施設に宿泊した場合のみ）	Ⅰ～Ⅲ　（略） Ⅳ　会議の開催、手当・旅費について ①～⑥　（略） ⑦　委員会等に出席された委員には旅費が支給されます（小委員会は支給されません）。航空機を使用された場合には、領収書及び搭乗券（半券）を速やかに事務局にご提出ください。（注 13） （注 13）　内国旅費の支給基準･･･（別紙４） ・航空機のプレミアムクラス、ファーストクラス、クラスＪ料金は支給されません。利用された場合、当該料金は自己負担となります。 ・航空券の購入にあたっては、可能な範囲で割引航空券等を御利用ください。 ・航空券等は会議開催通知受領後に購入願います。 （新設） （新設） （新設） ⑧～⑪　（略） ⑫　委員会等の出席に係る旅行完了の日の翌日から起算して１４日以内に、旅費支給に関係する次の必要書類 （１）・（２）　（略） （新設）

を事務局に提出（必着）した委員（正確な記載をした振込先等調査票を提出していない委員を除く。）については、当該会議終了後２か月以内に、規定する旅費を支給します（注13）。 （注13）　（略） Ⅴ　分野別委員会又は分科会の提言及び報告等について （注14）　（略） ①　（略） ②　公表に当たっては、総会、幹事会（注15）、科学的助言等対応委員会又は部の承認が必要です。委員会等の名称で公表しようとする場合も同様です。総会、幹事会、科学的助言等対応委員会又は部における意思の表出の案等の説明者は、原則として、委員会等の委員長となります。 （注15）　（略） ③～⑤　（略） ⑥　社会的関心が高く国民に多大な影響が及びうる問題や、不確定要素が伴い時を追って状況が変化する緊急性が高い問題等については、専門家の間で意見の統一ができなくても、多様な視点からの議論の集約や検討を経た上で、異なる意見のそれぞれの根拠を付した意見分布を明示する等の形で情報が発信される必要があります。幹事会では、こうした趣旨を踏まえ、適時、適切な発信に努めることとしておりますので、意思の表出を作成される際には御留意ください。 ⑦～⑨　（略） Ⅵ　講演会、シンポジウム等の開催について １．講演会、シンポジウム等の主催・共催及び後援	を事務局に提出（必着）した委員（正確な記載をした振込先等調査票を提出していない委員を除く。）については、当該会議終了後２か月以内に、別紙４に規定する旅費を支給します（注14）。 （注14）　（略） Ⅴ　分野別委員会又は分科会の提言及び報告等について （注15）　（略） ①　（略） ②　公表に当たっては、総会、幹事会（注16）、科学的助言等対応委員会又は部の承認が必要です。委員会等の名称で公表しようとする場合も同様です。総会、幹事会、科学的助言等対応委員会又は部における意思の表出の案等の説明者は、原則として、委員会等の委員長となります。 （注16）　（略） ③～⑤　（略） ⑥　社会的関心が高く国民に多大な影響が及びうる問題や、不確定要素が伴い時を追って状況が変化する緊急性が高い問題等については、専門家の間で意見の統一ができなくても、多様な視点からの議論の集約や検討を経た上で、異なる意見のそれぞれの根拠を付した意見分布を明示する等の形で情報が発信される必要があります。幹事会では、こうした趣旨を踏まえ、適時、適切な発信に努めることとしておりますので、意思の表出を作成される際にはご留意ください。 ⑦～⑨　（略） Ⅵ　講演会、シンポジウム等の開催について １．講演会、シンポジウム等の主催・共催及び後援

①　（略） ②　学協会が行う講演会、シンポジウム等については、講演内容等が基準を満たせば日本学術会議が「後援」することができます（注16）。開催日の３か月前までに申請書の提出が必要です。形式的に分野別委員会・分科会が関与しているが、実質的には学協会が主催するもの等については、この後援制度を御利用ください。 　なお、後援は幹事会の議を経て「日本学術会議」の名義で行います。部・分野別委員会・分科会の名義ではありませんので御留意願います。 （注16）　日本学術会議後援名義の使用承認基準……（別紙４） ２．講演会、シンポジウム等の実行 ①　委員会等が、講演会、シンポジウム等を開催する場合には、事前に関係部の承認を得た上で、幹事会の承認を得る必要があります（注17）。 　なお、日本学術会議のホームページへの掲載は、幹事会での了承後となりますので、広報のために早めの掲載を希望される場合等には、内容も早めに固める必要があります。 （注 17）　講演会、シンポジウム等開催の約２か月前の幹事会に間に合うように、事務局に講演会、シンポジウム等主催提案書（別紙５　：　内規別表第３）を御提出ください。 ②　（略） ③　一般に公開（参加が自由）で参加費が無料であることが原則となります。参加の資格要件がある場合や参加費を徴収する場合等、国の機関が主催するにふさわしくない場合は、日本学術会議の分野別委員会又は分科会として「主催」することはできません（注18）。 （注18）　日本学術会議として「後援」名義の使用を許可できる場	①　（略） ②　学協会が行う講演会、シンポジウム等については、講演内容等が基準を満たせば日本学術会議が「後援」することができます（注17）。開催日の３か月前までに申請書の提出が必要です。形式的に分野別委員会・分科会が関与しているが、実質的には学協会が主催するもの等については、この後援制度を御利用ください。 　なお、後援は幹事会の議を経て「日本学術会議」の名義で行います。部・分野別委員会・分科会の名義ではありませんので御留意願います。 （注17）　日本学術会議後援名義の使用承認基準……（別紙５） ２．講演会、シンポジウム等の実行 ①　委員会等が、講演会、シンポジウム等を開催する場合には、事前に関係部の承認を得た上で、幹事会の承認を得る必要があります（注18）。 　なお、日本学術会議のホームページへの掲載は、幹事会での了承後となりますので、広報のために早めの掲載を希望される場合等には、内容も早めに固める必要があります。 （注 18）　講演会、シンポジウム等開催の約２か月前の幹事会に間に合うように、事務局に講演会、シンポジウム等主催提案書（別紙６　：　内規別表第３）を御提出ください。 ②　（略） ③　一般に公開（参加が自由）で参加費が無料であることが原則となります。参加の資格要件がある場合や参加費を徴収する場合等、国の機関が主催するにふさわしくない場合は、日本学術会議の分野別委員会又は分科会として「主催」することはできません（注19）。 （注19）　日本学術会議として「後援」名義の使用を許可できる場

合もありますので、事務局にお問い合わせください。 ④　（略） ⑤　講演会、シンポジウム等の開催後には、その概要について、別紙６（内規別表第４）の様式により日本学術会議事務局への報告を行ってください（報告の提出は、講演会、シンポジウム等の開催からおおむね１か月以内）。 Ⅶ　（略） （別紙１）～（別紙３）　（略） （削除） （別紙４） （別紙５） （別紙６）	合もありますので、事務局にお問い合わせください。 ④　（略） ⑤　講演会、シンポジウム等の開催後には、その概要について、別紙７（内規別表第４）の様式により日本学術会議事務局への報告を行ってください（報告の提出は、講演会、シンポジウム等の開催からおおむね１か月以内）。 Ⅶ　（略） （別紙１）～（別紙３）　（略） （別紙４） （別紙５） （別紙６） （別紙７）

附　則（令和７年　月　日日本学術会議第　　回幹事会決定）

この決定は、令和７年４月１日から施行する。

提案２

【機能別委員会】
○分科会委員の決定（追加１件）
（国際委員会国際会議主催等検討分科会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
齋藤　政彦	神戸学院大学経営学部教授／神戸大学名誉教授	第三部会員

【設置：第358回幹事会（令和５年11月27日）、追加決定後の委員数：９名】

提案３

部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置について

分科会等名：第三部理工系博士人材育成分科会

1	担当部及び関係委員会名	第三部
2	委員の構成	25 名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	令和６年の第三部会で行った、理工系分野における博士人材育成の課題・問題点とその原因、課題解決に向けた施策を整理し、報告をまとめる。その際に、必要に応じて課題の原因や施策の妥当性に関するエビデンスの収集（アンケート実施と既存データの活用）を行う。報告をまとめる際には、分野共通の課題だけでなく、分野による状況・課題の違いについても明記し、俯瞰的な視野で、理工系分野の博士人材が我が国の中長期的発展に資する施策・方策を提起する。
4	審議事項	１.理工系分野における博士人材育成の課題・問題点とその原因に関する事項 ２.課題解決に向けた施策・方策に関する事項 ３.その他関連する事項 ４.上記に関わる報告、提言等の審議決定 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和７年３月 31 日～令和８年９月 30 日
6	備考	

【分野別委員会合同分科会】

〇委員の決定（新規１件）

（第三部理工系博士人材育成分科会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
伊藤　由佳理	東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授	第三部会員
内田　誠一	九州大学理事／副学長	第三部会員
沖　大幹	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
奥村　幸子	日本女子大学理学部数物情報科学科教授	第三部会員
尾﨑　由紀子	九州大学大学院工学研究院非常勤講師／大阪大学接合科学研究所招聘教授	第三部会員
北川　尚美	東北大学大学院工学研究科教授	第三部会員
三瓶　政一	大阪大学名誉教授	第三部会員
下田　吉之	大阪大学大学院工学研究科教授	第三部会員
関谷　毅	大阪大学産業科学研究所教授	第三部会員
髙木　周	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
田村　圭子	新潟大学危機管理本部危機管理センター教授	第三部会員
常行　真司	東京大学大学院理学系研究科教授	第三部会員
堀　利栄	愛媛大学大学院理工学研究科教授	第三部会員
宮崎　恵子	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所国際連携センターセンター長	第三部会員
岸村　顕広	九州大学大学院工学研究院応用化学部門／分子システム科学センター准教授	連携会員
関根　千津		連携会員

【設置予定：第 382 回幹事会（令和７年３月 31 日）、決定後の委員数：16 名】

提案４

分野別委員会運営要綱（平成26年８月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改　正　後

別表第１

分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
総合工学委員会	（略）	（略）	（略）	（略）
	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会	（略）	（略）	（略）
	（略）	（略）	（略）	（略）
	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会フュージョンエネルギー小委員会	１．フュージョンエネルギーの学術研究の視点とアプローチ ２．フュージョンエネルギー分野の人材育成、社会連携に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和７年３月31日～令和８年９月30日
	（略）	（略）	（略）	（略）
電気電子工学委員会	電気電子工学委員会URSI分科会	（略）	（略）	（略）
	（略）	（略）	（略）	（略）
	電気電子工学委員会URSI分科会電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会	１．国内外の関係機関における電波利用の共存に関する技術基準・勧告・認証法等の具体例や、多様なステークホルダーから実例及び課題を収集し、有効性とリスクに関する指標などの成果や情報をデータベースとして蓄積、公開 ２．事例からレギュラトリーサイエンスに基づいた共存条件を導き出し現実の共存条件と比較し、問題点や意思決定プロセスでの課題の明確化、高度な共存に向け電波利用の指標を精緻化し、実験実証等により指標の評価や導入法等を確立 ３．電波の科学・商業・公共利用における電波の被干渉と与干渉に係わる電波利用者、法制度整備や認証を管轄する行政機関、サービス提供者、標準化組織などの産業界と協議し、課題と解決策の継続的な学術振興を推進 ４．以上の目標に向け、他の小委員会との連携、検討成果の公開、URSI本部への上申に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和７年３月31日～令和８年９月30日
	（略）	（略）	（略）	（略）
	（略）	（略）	（略）	（略）

改　正　前

別表第１

分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
総合工学委員会	（略）	（略）	（略）	（略）
	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会	（略）	（略）	（略）
	（略）	（略）	（略）	（略）
	（新規設置）			
	（略）	（略）	（略）	（略）
電気電子工学委員会	電気電子工学委員会URSI分科会	（略）	（略）	（略）
	（略）	（略）	（略）	（略）
	（新規設置）			
	（略）	（略）	（略）	（略）
	（略）	（略）	（略）	（略）

附　則

この決定は、決定の日から施行する。

総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会小委員会の設置について

分科会等名：フュージョンエネルギー小委員会

1	所属委員会名（複数の場合は、主体となる委員会に〇印を付ける。）	総合工学委員会
2	委員の構成	20 名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	フュージョン（核融合）エネルギーは優れた特性が期待されるエネルギー技術である。近年、JT-60SA のトカマクプラズマ生成、米国立点火施設におけるレーザー核融合点火・燃焼実現など重要な成果が得られ、社会からの関心が高まっている。 フュージョンエネルギーは物理学はもとより機械工学、材料工学、電気工学、安全工学など広範に亘る総合工学の側面を持つ。加えて社会実装には環境学、経済学等の知見が欠かせない。 この観点から、フュージョンエネルギーに関わる諸分野の連絡を図り、かつ分野を超えた俯瞰的立場から意見交換を行うことを目的として、核融合に限られない幅広い構成員から成るフュージョンエネルギー分科会を設置する。
4	審議事項	１．フュージョンエネルギーの学術研究の視点とアプローチ ２．フュージョンエネルギー分野の人材育成、社会連携 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和７年３月 31 日 ～ 令和８年９月 30 日
6	備考	**※新規設置**

電気電子工学委員会 URSI 分科会小委員会の設置について

分科会等名：電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会

1	所属委員会名（複数の場合は、主体となる委員会に〇印を付ける。）	電気電子工学委員会
2	委員の構成	20 名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	第 25 期日本学術会議における未来の学術振興構想「学術の中長期研究戦略」に提案し採択された「SDGs の達成に資する電波資源の科学・商業・公共利用におけるレギュラトリーサイエンスに基づくハーモナイゼーション」の研究計画を推進する体制を構築・強化し、電波資源の科学、産業、公共利用などの多様な利用者、研究者、管理者ならびに電波の測定、利用基準、制度などのあらゆる視点から、SDGs 達成に向けての公平性、利便性などについて電波資源利用に係わるすべてのステークホルダーによる合意を目指し、国際学術団体である URSI が対象とする電波科学の全分野（URSI 分科会の全小委員会）の協力により、当該課題への国際貢献に寄与するために設置する。
4	審議事項	１．国内外の関係機関における電波利用の共存に関する技術基準・勧告・認証法等の具体例や、多様なステークホルダーから実例及び課題を収集し、有効性とリスクに関する指標などの成果や情報をデータベースとして蓄積、公開 ２．事例からレギュラトリーサイエンスに基づいた共存条件を導き出し現実の共存条件と比較し、問題点や意思決定プロセスでの課題の明確化、高度な共存に向け電波利用の指標を精緻化し、実験実証等により指標の評価や導入法等を確立 ３．電波の科学・商業・公共利用における電波の被干渉と与干渉に係わる電波利用者、法制度整備や認証を管轄する行政機関、サービス提供者、標準化組織などの産業界と協議し、課題と解決策の継続的な学術振興を推進 ４．以上の目標に向け、他の小委員会との連携、検討成果の公開、URSI本部への上申 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和７年３月 31 日 ～ 令和８年９月 30 日
6	備考	※新規設置

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（追加１件）

（経済学委員会 IEHA 分科会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
山本　千映	大阪大学大学院経済学研究科教授	連携会員

【設置：第 351 回幹事会（令和５年８月 29 日）、追加決定後の委員数：９名】

○小委員会委員の決定（新規２件）

（総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会フュージョンエネルギー小委員会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
馬奈木　俊介	九州大学大学院工学研究院都市システム工学講座教授	第一部会員
高田　保之	九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所特命教授・名誉教授／エディンバラ大学名誉教授	第三部会員
玉田　薫	九州大学主幹教授・副学長	第三部会員
伊藤　公孝	中部大学総長補佐・顧問・卓越教授／大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所フェロー・名誉教授	連携会員
岩城　智香子	東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー	連携会員
兒玉　了祐	大阪大学レーザー科学研究所長	連携会員
武田　秀太郎	九州大学都市研究センター准教授	連携会員
筑本　知子	大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授	連携会員
中村　浩章	大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所研究部プラズマ・複相間輸送ユニット教授	連携会員

【設置予定：第 382 回幹事会（令和７年３月 31 日）、決定後の委員数：11 名】

（電気電子工学委員会 URSI 分科会電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　考
河野　隆二	横浜国立大学名誉教授	連携会員
八木谷　聡	金沢大学理工研究域電子情報通信学系教授	連携会員

【設置予定：第 382 回幹事会（令和７年３月 31 日）、決定後の委員数：７名】

○小委員会委員の決定（追加２件）

（農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
竹山　春子	早稲田大学理工学術院教授	第二部会員

【設置：第 373 回幹事会（令和６年 10 月 21 日）、追加決定後の委員数：16 名】

（環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会 GEWEX 小委員会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
谷田貝　亜紀代	弘前大学大学院理工学研究科教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和５年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：23 名】

提案５

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概　　要
1	日本自律学習学会 （https://jasalorg.com/）	本団体は、語学教育における自律学習教育の専門的知識、セルフ・アクセス・センターの立ち上げや運営などに関する情報提供や会員同士が情報を交換し合う場所を提供し、この分野の発展と普及に貢献することを目的とするものである。
2	一般社団法人　日本ねじ研究協会 （http://jfri.jp/）	本団体は、工学の各分野にわたる知識・経験を結集し、ねじに関する学術研究及び技術の向上を図るとともに、あわせて標準化を推進し、もって産業界の健全な発展に寄与することを目的とするものである。

提案６

令和7年度代表派遣実施計画に基づく会議派遣者の決定について

以下のとおり、令和7年度代表派遣実施計画（第 381 回幹事会（令和7年2月 27 日）にて承認済み）に基づく 10-3月期の会議派遣候補者の決定を行う。

番号	会議名称	会　期	開催地/ 形式等	派遣候補者 （職名）	推　薦	内　容
1	科学技術データ委員会(CODATA)総会及び International Data Week 2025	10 月 13 日 ～ 10 月 18 日	ブリスベン （オーストラリア）	大武　美保子（※1） ― （国立研究開発法人理化学研究所チームリーダー）	情報学委員会国際サイエンスデータ分科会 CODATA 小委員会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
2	国際宝石学会(IGC)及び国際鉱物学連合(IMA)・IMA 宝石物質コミッションビジネス会議	10 月 20 日 ～ 10 月 24 日	アテネ （ギリシャ）	阿依　アヒマディ（※1） ― （Tokyo Gem Science LLC・GSTV 宝石学研究所代表／所長）	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
3	海洋研究科学委員会（SCOR）年次総会	10 月 28 日 ～ 10 月 31 日	サンタマルタ （コロンビア）	張　勁 連携会員 （富山大学学長補佐／学術研究部理学系教授）	地球惑星科学委員会 SCOR 分科会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
4	世界人類学連合(WAU)2025 年会議	11 月1日 ～ 11 月9日	アンティグア （グアテマラ）	小泉　潤二（※1） ― （大阪大学名誉教授）	地域研究委員会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
5	第 26 回アジア社会科学研究協議会連盟(AASSREC)総会	12 月2日 ～ 12 月5日	ニューデリー （インド）	小田中　直樹 第一部会員 （東北大学大学院経済学研究科教授）	第一部国際協力分科会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定

6	インターアカデミーパートナーシップ(IAP)総会 2025	12 月8日 ～ 12 月 11 日	カイロ (エジプト)	光石　衛 会長、第三部会員 (独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授)	国際委員会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
7	宇宙空間研究委員会(COSPAR)・プログラム委員会・科学諮問委員会	令和8年 3月 16 日 ～ 3月 19 日	パリ (フランス)	矢野　創(※1) — (国立開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所助教)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
8	第 82 回国際地質科学連合(IUGS)理事会及び執行理事事務局会議	令和8年 3月 17 日 ～ 3月 20 日	パリ (フランス)	大久保　泰邦 連携会員 (地熱技術開発株式会社・探査部・研究主幹)	地球惑星科学委員会IUGS分科会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
9	国際北極科学委員会(IASC)北極科学サミット週間 2026	令和8年 3月 27 日 ～ 4月2日	オーフス (デンマーク)	榎本　浩之(※1) — (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長／特任教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
10	G サイエンス学術会議 2026	令和8年 3月頃	パリ (フランス)	光石　衛 会長、第三部会員 (独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授)	国際委員会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定
11	アジア科学アカデミー・科学協会連合役員会	未定	未定	佐竹　健治 第三部会員 (東京大学名誉教授)	国際委員会アジア学術会議等分科会	**・派遣者の決定** ※現地出席予定

(注)

(※1)当該派遣候補者は、連携会員(特任)に承認されることを条件とする。

提案７

日本学術会議主催学術フォーラム
「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢：地球惑星科学の国際連携・
国際協調のこれまでとこれから」
の開催について（案）

１．主　催：日本学術会議

２．日　時：令和７年７月12日（土）13：00 ～ 17：30

３．場　所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

４．委員会等の開催：開催予定あり

５．開催趣旨：
我が国の科学者は、日本学術会議が代表機関となり、国内を取りまとめるアカデミーとして 40 余りの国際学術団体に加入することで、多くの専門家が各団体の総会等の国際会議に日本学術会議の代表として派遣し運営・審議に参画し、国際連携で純粋な学術のみならず人類が直面する様々な課題の解決に向けて活動を行っている。特に地球惑星科学分野は我々の住む地球や近宇宙空間の科学を研究対象としており、人類の生存に深く関わる様々な貢献をしていることが特徴であり、12 もの国際学術団体に加入して我が国の存在感を示している。近年、急激な地球温暖化が進み将来の生存が危惧されており、その対策は待ったなしの状況である。一方、国際情勢も大きく変わって国家間の対立が顕在化し、国や地域を超えた国際協力や国際連携が難しくなってきている状況である。このような局面を迎え、地球惑星科学分野の様々な学術団体はどのように連携を維持・深化させ、日本はどのような貢献を果たしていくべきか、そして我が国の次世代を含む将来の人類にどのように責任を果たすべきか、様々な分野での国際連携を俯瞰することで国民の皆様と共に考える場を提供したいと考えている。

６．次　第：
総合司会
原田 尚美（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授）

13:00～13:15
副会長挨拶
日比谷 潤子（日本学術会議第一部会員、日本学術会議副会長、国際基督教大学名誉教授）
開会の挨拶及び趣旨説明

中村 卓司（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所教授）

13:15～14:10
セッション１　急激に変化する自然や環境に対応する科学と活動
司会・コーディネータ
堀 利栄（日本学術会議第三部会員、愛媛大学大学院理工学研究科教授）

気候変動を明らかにする－WCRP（世界気候研究計画）の現況と挑戦－
春日 文子（日本学術会議連携会員、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科／プラネタリーヘルス学環教授）
北極の急速な環境変化と新しい社会-IASC(国際北極科学委員会)の現況と挑戦-
榎本 浩之（日本学術会議連携会員(特任)、情報・システム研究機構国立極地研究所副所長、特任教授）
太陽活動変動が地球環境を変えるか？－SCOSTEP(太陽地球系物理学･科学委員会)の現況と挑戦－
塩川 和夫(日本学術会議連携会員､名古屋大学宇宙地球環境研究所所長／教授)
（話題提供１件追加の可能性あり）
質疑応答・パネルディスカッション

14:10～14:25
休憩

14:25～15:40
セッション２　激動する国際情勢に対応する科学活動とルールづくり
司会・コーディネータ
三枝 信子（日本学術会議第三部会員、日本学術会議副会長、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長

チバニアンの背景－IUGS（国際地質科学連合）の現況と挑戦－
掛川 武（日本学術会議連携会員、東北大学大学院理学研究科教授）
国境のない巨大な氷大陸と地球の将来-SCAR(南極研究科学委員会)の現況と挑戦-
中村 卓司（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所教授）
海洋と気候の変動を知る－SCOR（海洋研究科学委員会）の現況と挑戦－
張　勁（日本学術会議連携会員、富山大学学長補佐／学術研究部理学系教授）
宇宙開発の新展開と国際ルール－COSPAR（宇宙空間研究委員会）の現況と挑戦－
藤本 正樹（日本学術会議連携会員(特任)、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究

所教授、副所長）

データ取扱の国際ルールの最新状況-WDS(世界科学データシステム)の現況と挑戦-

村山 泰啓（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構 NICT ナレッジハブ研究統括／ナレッジハブ長（兼））

（話題提供１件追加の可能性あり）

質疑応答・パネルディスカッション

15:40～15:55

休憩

15:55～17:10

セッション３　持続可能な社会を維持するための基礎的科学と活動

司会・コーディネータ

西 弘嗣（日本学術会議第三部会員、福井県立大学恐竜学研究所所長）

変動の歴史と人間の歴史の相克を明らかにした－INQUA（国際第四紀学連合）の現況と挑戦－

齋藤 文紀（日本学術会議連携会員、島根大学副学長／エスチュアリー研究センター特任教授）

地球内外の構造と変動を明らかにしてきた－IUGG（国際測地学及び地球物理学連合）の現況と挑戦－

佐竹 健治（日本学術会議第三部会員、東京大学名誉教授）

鉱物が語る－IMA（国際鉱物学連合）の現況と挑戦－

土屋 旬（日本学術会議連携会員、愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター教授）

持続可能な社会への挑戦－IGU（国際地理学連合）の現況と挑戦－

鈴木 康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）

地図から人間社会の生活場を考える－ICA（国際地図学協会）の現況と挑戦－

伊藤 香織（日本学術会議連携会員、東京理科大学創域理工学部建築学科教授）

（話題提供１件追加の可能性あり）

質疑応答・パネルディスカッション

17:10～17:25

総括コメント

春山 成子（三重大学名誉教授）

氷見山 幸夫（北海道教育大学名誉教授）

17:25～17:30

閉会挨拶

佐竹 健治（日本学術会議第三部会員、東京大学名誉教授）

17:30

閉会

（下線は、日本学術会議関係者）

提案８

公開シンポジウム
「Soil Health とは？：土壌の健康の理解・維持向上・共有」
の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会

２．共　催：一般社団法人日本土壌肥料学会

３．後　援：日本土壌微生物学会、日本ペドロジー学会、日本土壌動物学会、公益社団法人農業農村工学会、日本第四紀学会、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人日本森林学会、土壌物理学会、日本農作業学会、公益社団法人環境科学会、一般社団法人日本作物学会、根研究学会、森林立地学会、日本沙漠学会、日本腐植物質学会、日本熱帯生態学会、日本熱帯農業学会、一般社団法人日本生態学会、一般社団法人日本農学会、ムーンショット型農林水産研究開発事業「循環型協生農業プラットフォームコンソーシアム」

４．日　時：令和７（2025）年７月 26 日（土）10：00 ～ 17：00

５．場　所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定あり

８．開催趣旨：
土壌は陸域のすべての生態系を支える基盤です。すなわち、食糧生産の場であるとともに、土地利用を支える植物栄養の供給と循環、生物多様性、水の浄化、気候制御など環境を調整し、地域の景観の基盤として文化を支えるサービスを提供しています。長い間、人類は土壌が供給するこれらのサービスを当たり前の存在として無意識に享受してきました。さらに、良質な作物を多量に安定的に収穫するための農業生産技術を開発し、土壌が提供するサービスを過剰に搾取し続けてきました。しかし、食料安定供給の代償として、生物多様性の喪失、土壌有機物の消耗、水質汚濁や富栄養化、温室効果ガスの排出、アンモニア揮散、NOx や SOx の排出、土壌侵食や土壌圧縮や塩類化などの土壌劣化が世界中で顕在化しています。すなわち、日本を含む世界中のさまざまな地域で土壌の健康が損なわれています。
本シンポジウムでは、この事実を認識し、将来の土壌の健康の維持向上のための道筋を次の３つのテーマにおいて議論します。

1． 土壌の健康とは？：FAO（国連食糧農業機関）では、2020 年に土壌の健康を「土壌が陸上生態系の生産性、多様性、環境サービスを維持する能力」と定義しています。生態系サービスは、環境条件や土地利用によって異なります。日本は、地形は急峻で火山があり、気候はモンスーンで亜寒帯から亜熱帯の範囲にあり、土壌は火山性を含む堆積性です。また、水田という特徴的な土地利用がもたらす生態系サービスも重要です。日本の土壌が健康である状態や土地利用に応じた土壌の健康診断基準について検討します。

2．土壌の健康を向上させるイノベーション：健康な土壌が最大限の生態系サービスを生み出す要は、有機物として存在する土壌炭素です。土壌炭素を消耗させない、土壌炭素の蓄積を促す技術開発は、土壌の健康回復のためだけでなく、地球温暖化対策としても重要です。適切に土壌炭素を維持した土壌は、様々な環境インパクトを柔軟に受け止め、生態系サービスを維持する回復力と持続性に優れた土壌となります。土壌の健康回復と健康維持のため、土地利用に応じた管理技術について検討します。

3．土壌の健康を共有するために：地域レベルで土壌の健康を維持するためには、すべての市民が土壌からのサービスの恩恵に浴していることを認識し、その土壌の健康状態を知り、管理をサポートできることが望まれます。現在小学校の理科の教科書には土壌の文字そのものが無い状態です。このような事態において、土壌の健康に気付くことは非常に困難です。正当な知識、正確な情報、適正な管理技術を共有できる連携の構築について検討します。

9．次　第：

司会：川東　正幸（日本学術会議連携会員／東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域教授）

10:00-10:15

開会挨拶：犬伏　和之（日本学術会議連携会員／東京農業大学応用生物科学部農芸化学科教授）

共同主催者挨拶：藤原　徹（日本学術会議連携会員／一般社団法人日本土壌肥料学会会長／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

趣旨説明：波多野　隆介（日本学術会議連携会員／北海道大学名誉教授）

10:15-11:45

第 1 部 土壌の健康とは？

「今なぜ土壌の健康なのか？ 期待と課題」

藤井　一至（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所主任研究員）

「土壌健康の向上と気候変動緩和が連携する持続可能な土壌管理－大学農場における長期畑輪作栽培が示す知見－」

小松﨑　将一（日本学術会議農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会委員／茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター教授）

「水田微生物がもたらす土壌の健康」

犬伏　和之（日本学術会議連携会員／東京農業大学応用生物科学部農芸化学科教授）

「生態学からソイルヘルスへの期待」
北島　薫（日本学術会議第二部会員／一般社団法人日本生態学会会長／京都大学大学院農学研究科教授）
討論
座長：山口　紀子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門化学物質リスク研究領域グループ長補佐）
13：20-15:05
第２部　土壌の健康を向上させるイノベーション
「不耕起草生栽培の科学」
金子　信博（日本学術会議農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会副委員長／福島大学農学群食農学類特任教授）
「土壌の健康を支える土壌の構造」
中塚　博子（東京農業大学農学部助教）
「日本や東南アジアの水田土壌の肥沃度変化と土壌の健康」
矢内　純太（日本学術会議連携会員（特任）／京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授）
「バナナプランテーションにおける土壌病害」
渡辺　京子（日本学術会議第二部会員／玉川大学農学部教授）
「農業土壌微生物アトラスの構築と生物因子から見た農業土壌健康度」
竹山　春子（日本学術会議第二部会員／早稲田大学理工学術院教授）
討論
座長：信濃　卓郎（日本学術会議連携会員／一般社団法人日本土壌肥料学会副会長／北海道大学大学院農学研究院教授）
15:20- 16:50
第３部　土壌の健康を共有するために
「米国における Soil Health の取り組み」
水田　勝利（日本学術会議農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会委員／ケンタッキー大学土壌植物学科助教授）
「EU における Soil Health の取り組み」
木村　園子 ドロテア（日本学術会議連携会員／ライプニッツ農業景観研究センター土地利用およびガバナンス領域長／フンボルト大学ベルリン生命科学学部農学園芸科教授）
「小学校教育における「土」の認識」
森　圭子（日本学術会議農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会委員／一般社団法人日本土壌肥料学会土壌教育委員会委員長／埼玉県立川の博物館学芸グループマネージャー）
「Soil Health に向けた社会的合意のための土壌倫理」
太田　和彦（南山大学総合政策学部准教授／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員准教授）

討論

座長：若林　正吉（日本学術会議農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会委員／一般社団法人日本土壌肥料学会９部門副部門長／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門土壌環境管理研究領域主任研究員）

17:00

閉会挨拶：小﨑　隆（日本学術会議連携会員／一般社団法人日本農学会副会長／愛知大学国際問題研究所名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案９

日本学術会議主催学術フォーラム
「多層多軸連関で捉えて対策する心血管・腎・代謝症候群」
の開催について（案）

１．主　催：日本学術会議

２．日　時：令和７年９月13日（土）13：00 ～ 17：00

３．場　所：オンライン開催

４．委員会等の開催：開催予定なし

５．開催趣旨：
代謝異常を基盤とする生活習慣病、慢性腎臓病、そして心血管病は、疾患としての連続性を有し、その根底に共通する病態、さらには治療・管理における多臓器連関の重要性を反映し、心血管・腎・代謝症候群（Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome）という包括的な概念のもとで捉えられるようになりつつある。この概念は近年、急速に広まり、医学のみならず広範な領域において注目を集めている。心血管・腎・代謝症候群（Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome）を論じるにあたっては、単に個々の疾患を検討するに留まらず、多臓器が相互に関連し合う複雑な機序、若年期から老年期に至る長いライフステージにわたる管理、そして医療・福祉・公衆衛生の分野を超えて関わる多様な専門職種の役割を踏まえ、多層的かつ多軸的な視点から議論を展開することが不可欠である。本フォーラムにおいては、心血管・腎・代謝症候群（Cardiovascular-Kidney-Metabolic Syndrome）の現状と未来を見据え、医学の専門家のみならず、産業界、行政、さらには社会学の分野において第一線で活躍する識者を招聘し、学際的かつ実践的な議論を深めていく。

６．次　第：
座長
神吉 佐智子（日本学術会議連携会員、大阪医科薬科大学医学部外科学講座胸部外科講師）
堀 美香（日本学術会議連携会員、名古屋大学環境医学研究所内分泌代謝分野講師）

開会挨拶
野出 孝一（日本学術会議第二部会員、佐賀大学医学部長・内科主任教授）

演者

永井 良三（自治医科大学学長）
福神 雄介（アルフレッサ株式会社代表取締役社長）
金子 英弘（日本学術会議連携会員(特任)、東京大学医学部先進循環器病学講座特任講師）
水野 篤（日本学術会議連携会員(特任)、聖路加国際病院医療の質管理室室長）
稲垣 暢也（日本学術会議連携会員、公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院理事長／京都大学名誉教授／京都大学大学院医学研究科特命教授）
中室 牧子（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学総合政策学部教授／公益財団法人東京財団政策研究所研究主幹）
柏原 直樹（日本学術会議連携会員、川崎医科大学特任教授）

総合討論
司会
南學 正臣（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

閉会挨拶
山本 晴子（日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事）

（下線は、日本学術会議関係者）

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和７年度第２四半期】

＜概要＞

１．日本学術会議主催学術フォーラム

（１）経費負担を要するものは、原則として年間 15 件程度

（２）経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計４件まで

（３）土日祝日開催のものは、四半期ごとに２件まで

○今回提案【令和７年度第２四半期】　２件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
1	提案７	「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢：地球惑星科学の国際連携・国際協調のこれまでとこれから」 **（企画：地球惑星科学委員会）**	令和７年７月12日(土)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要
2	提案９	「多層多軸連関で捉えて対策する心血管・腎・代謝症候群」 **（企画：臨床医学委員会）**	令和７年９月13日(土)	オンライン開催	要	要

２．土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

（１）各年度 32 回まで、及び四半期ごとにおおむね８回

（ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）

○今回提案【令和７年度第２四半期】　１件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
1	提案８	公開シンポジウム「Soil Health とは？：土壌の健康の理解・維持向上・共有」	令和７年７月26日(土)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	不要	不要

（参考）----------

■今回提案を含めた合計数

１．学術フォーラム（平日０件/土日２件/開催曜日未定０件）　全　２　件

（内訳）※全件について、経費又は人的負担要

		第１四半期 （４月～６月）	第２四半期 （７月～９月）	第３四半期 （10 月～12 月）	第４四半期 （１月～３月）
学術フォーラム	（土日）		2		
	（平日）				
	（開催曜日未定）				
合計			2		

２．土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全２件　　残り：30 件

（内訳）

	関連部等	第１四半期 （４月～６月）	第２四半期 （７月～９月）	第３四半期 （10 月～12 月）	第４四半期 （１月～３月）
シンポジウム	第一部				
	第二部		1		
	第三部				
	若手ｱｶﾃﾞﾐｰ				
	課題別				
学術フォーラム（土日）			1		
合計			1		

提案 10

公開シンポジウム
「続・動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの！？」
の開催について

１．主　催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会

２．共　催：公益社団法人日本繁殖生物学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和７（2025）年５月 17 日（土）13：00 ～ 15：20

５．場　所：オンライン開催

６．一般参加の可否：可
　一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
　家畜・家禽の増殖のために研究されてきた生殖に関わる生理学や細胞生物学的知見は益々深化し、私たちヒトを含む様々な哺乳類へと広がりを見せています。また、家畜・家禽の繁殖のために開発されてきた人工授精、精子の凍結保存、体外受精・胚移植、顕微授精（卵細胞質内精子注入法）、初期胚の凍結・融解・移植などの諸技術は、もはや研究段階から応用段階へと達し、私たちの社会に溶け込んでいます。
　畜産学分科会では、これまで一般公開シンポジウムやセミナーを開催している日本繁殖生物学会と共催し、主に産業動物を対象とした繁殖学研究や技術が、SDGs にどのように貢献しているのかについて、具体的に紹介してきました。本シンポジウムでも引き続き、動物の繁殖学研究から派生した成果が、ニュースで見聞きした情報や私たちを取り巻く社会、加えて私たち自身とどのようにつながっているのかを紹介していきます。シンポジウムでは３人の演者により、排卵を制御する神経を理解することでヒトや家畜の排卵障害に貢献しようとする繁殖研究、絶滅危惧動物（キタシロサイ）救済に向けた繁殖研究、障がい者や子供も安心して乗馬を楽しめるようなインクルーシブな社会を目指したウマの繁殖研究、以上の内容を学術の重要性や社会的意義なども含めて、中高生や一般市民の皆様に、分かり易くご理解を頂ける機会にしたいと思います。

９．次　第：

13:00　開催の挨拶

大澤　健司（公益社団法人日本繁殖生物学会理事長／宮崎大学農学部獣医学科産業動物臨床繁殖学研究室教授）

13:10「排卵を操る脳の力！−神経メカニズム解明で家畜の繁殖力向上に貢献」

井上　直子（名古屋大学大学院生命農学研究科准教授）

座長：松田　二子（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

13:45「キタシロサイにも広がっていく、iPS 細胞から卵子を作る研究」

林　克彦（大阪大学大学院医学系研究科教授）

座長：尾畑　やよい（東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科教授）

14:20「同じ草食動物でこんなに違う、馬の繁殖の秘密！」

南保　泰雄（帯広畜産大学グローバルアグロメディシン研究センター教授）

座長：白砂　孔明（東京農業大学農学部動物科学科教授）

14:55　総合討論と総括

木村　直子（日本学術会議第二部会員／山形大学大学院農学研究科動物機能調節学分野教授／岩手大学大学院連合農学研究科教授）

15:20　閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 11

公開シンポジウム
「国民皆歯科健診の意義を考える」
の開催について

１．主　催：日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会、歯学委員会基礎系歯学分科会、歯学委員会臨床系歯学分科会

２．共　催：特定非営利活動法人日本口腔科学会

３．後　援：一般社団法人日本歯学系学会協議会、日本生命科学アカデミー（全て予定）

４．日　時：令和７（2025）年５月 17 日（土）15：00 ～ 16：30

５．場　所：キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）（長野県松本市大字水汲 69-２）

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
令和６年６月 21 日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2024」（いわゆる「骨太方針 2024」）において、「全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の活用と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた具体的な取組の推進」と記された。しかしながら現時点において、生涯を通じた歯科健診の普及やその有効性の検証は、まだ道半ばといえる。今回のシンポジウムでは、国民皆歯科健診の意義に関し、現時点で集積されている科学的根拠を整理すると共に、その実現に向けた今後の課題・展望について議論する。

９．次　第：
１）挨拶
15:00　樋田　京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授）
２）講演
座長
森山　啓司（日本学術会議第二部会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野教授）

後藤　多津子（日本学術会議連携会員／東京歯科大学歯科放射線学講座教授）

15:05　『生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた取組について』（仮題）

（調整中）（厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室）

15:25　『口から始める健康管理！歯周病が全身に与える影響とは』

片桐　さやか（東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授）

15:45　『就労世代における歯科健診を起点とした口腔保健と全身健康との関連性』

木村　光夫（ライオン株式会社研究開発本部口腔健康科学研究所マネージャー）

３）総合討論

16:05　進行

村上　伸也（日本学術会議第二部会員／大阪大学名誉教授）

石丸　直澄（日本学術会議連携会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科口腔病理学分野教授）

討論者

（調整中）（厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室）

片桐　さやか（東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授）

木村　光夫（ライオン株式会社研究開発本部口腔健康科学研究所マネージャー）

４）挨拶

16:25　中村　誠司（日本学術会議連携会員／九州大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 12

公開シンポジウム
「地名標準化の現状と課題―UNGEGN の活動を理解し日本の地名を考える―」
の開催について

１．主　催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会、地球惑星科学委員会 IGU 分科会

２．共　催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会地名・UNGEGN 小委員会、地理学連携機構(予定)

３．後　援：公益社団法人日本地理学会（予定）

４．日　時：令和７（2025）年５月 24 日（土）13：00 ～ 17：00

５．場　所：オンライン開催

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
近年、地名をめぐって様々な問題が浮上しており、国際的にも国連地名専門家グループ（UNGEGN）が地名の商業化回避、現地以外の言語での地名であるエクソニムの使用などについて議論しているが、日本は国際的な動向への対応が十分とは言えない。
国内では、平成の大合併を契機に行政地名に関する意見が多数出され、歴史的地名の保護、外国語表記の不統一、地理的表示制度との関連、住所データの扱い、地名データベースの問題などが課題として挙げられる。
こうした状況を踏まえ、本公開シンポジウムでは UNGEGN での議論の報告、国内における地名問題の報告を行うとともに、その対応を議論することを目的とする。

９．次　第：
総合司会　伊藤　香織(日本学術会議連携会員／東京理科大学創域理工学部建築学科教授)

13:00　挨拶：小長谷　有紀（日本学術会議第一部会員／国立民族学博物館名誉教授）
13:05　趣旨説明：高木　彰彦（九州大学名誉教授）

第一部　国連地名専門家グループでの日本の活動－UNGEGN の報告を中心に

13:15　外務省挨拶（代読：高木 彰彦（九州大学名誉教授））
13:20　渡辺　浩平（日本学術会議連携会員／帝京大学文学部教授）
「UNGEGN2025 の会議がどのように進められたのか」
13:40　高木　彰彦（九州大学名誉教授）
「漢字圏の地名委員会の新設について」
13:50　村上　広史（青山学院大学地球社会共生学部地球社会共生学科教授）
「国連と地名」

第二部　地名を取り巻く社会
14:10　八島　邦夫（元ＧＥＢＣＯ（大洋水深総図）指導委員会委員・ＳＣＵＦＮ（海底地形名小委員会）委員）
「海底地形の命名について」
14:20　荒木　雅也（茨城大学人文社会科学部教授）
「商標と地理的表示－地名問題の観点から－」
14:40　岩月　純一（東京大学大学院総合文化研究科教授）
「漢字圏での漢字地名をどのように同定するか」
15:00-15:10　休憩
15:10　鈴木　地平（文化庁文化財調査官）
「世界遺産と地名」
15:30　当山　昌直（沖縄大学地域研究所特別研究員）
　　安溪　遊地（山口県立大学名誉教授）
「歴史的遺産としての沖縄県の地名－琉球弧の島嶼名と失われる微小地名：歴史史料の再検討と西表島地名データベースを例に」
15:50　小野　有五（北海道大学名誉教授）
「旭川市におけるアイヌ語地名を平等に併記する地名表示の試みについて」
16:10　小田　富英（日本地名研究所理事）
「市民の学びの場としての日本地名研究所の取り組み」
16:10-16:25　休憩

第三部　総合討論：地名・UNGEGN 小委員会の今後の活動について
司会　若林　芳樹（日本学術会議連携会員／東京都立大学名誉教授）
16:25　矢野　桂司（日本学術会議第一部会員／立命館大学文学部教授／地理学連携機構代表）と講演者

16:55　閉会の挨拶　春山　成子（三重大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 13

公開シンポジウム
「生活習慣がその発症・進行に関与する疾病予防のための最適な社会環境づくりと
多様な担い手による支援」
の開催について

１．主　催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会

２．共　催：一般社団法人日本循環器病予防学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和７（2025）年５月 24 日（土）15：50 ～ 18：30

５．場　所：佐賀大学医学部臨床大講堂（佐賀県佐賀市鍋島５－１－１）（ハイブリッド開催）

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
生活習慣病は、日本における主要な健康課題の一つであり、その予防には個人の行動変容に加え、社会的・環境的要因への包括的な対応が求められる。近年の研究や政策動向を踏まえ、ライフコースの視点を取り入れた予防戦略、多職種連携の促進、ICT の活用、健康格差の是正、スティグマの軽減など、より総合的かつ実効性のある対策が重要視されている。本シンポジウムでは、こうした視点をもとに、生活習慣病予防の最適な社会環境づくりと、多様な担い手による支援のあり方について多角的に議論するとともに、生活習慣病の概念とその予防に関する社会的支援の枠組みについて検討を深める。特に、健康行動を支える環境整備のあり方や、社会的規定因子への対応、学校保健や地域での健康教育の強化、多職種連携による予防策、専門家へのアクセス向上など、幅広いテーマを取り上げ、今後の政策立案や実践につなげることを目的とする。
各講演では、生活習慣病予防に関する最新の知見や政策の方向性、実践的な取り組みが紹介される。個人の健康行動を促進するための社会的支援、管理栄養士をはじめとする専門職の養成と卒後教育、多職種連携を活かした予防策の展開、ICT 技術の活用、さらにはスティグマの軽減を意識した実践的アプローチなど、各分野の専門家が多角的な視点から議論を深める。また、質疑応答を通じて、参加者との双方向的な意見交換を図り、実効性

のある施策のあり方を探る。

さらに、総合討論では、異なる専門分野の知見を融合し、今後の社会環境整備の方向性を具体的に検討する。特に、誰一人取り残さない健康づくりを実現するための課題を明確にし、医療、行政、教育、地域社会が連携して果たすべき役割について議論を深める。本シンポジウムを通じて、生活習慣病対策の新たな指針を示し、社会全体の予防意識の向上と、多様な主体による協働を促進する契機とすることを目指す。

９．次　第：

テーマ：生活習慣がその発症・進行に関与する疾病予防のための最適な社会環境づくりと多様な担い手による支援

◇座長

水野　篤（日本学術会議連携会員（特任）／聖路加国際病院医療の質管理室室長）

八谷　寛（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院医学系研究科教授）

15:50「厚生労働省における「生活習慣病」という用語に関する中長期的な検討の方向性（仮）」

大坪　寛子（厚生労働省健康・生活衛生局長）

16:20「個人差や社会的規定因子への視点を強化、スティグマの軽減を意識した実践活動・多職種連携（仮）」

和泉　京子（武庫川女子大学看護学部看護学科教授）

16:50「ライフコース・多職種連携を考慮した生活習慣病予防を進めていくための管理栄養士の養成教育と卒後教育、多職種連携やICT利活用のあり方（仮）」

由田　克士（大阪公立大学大学院生活科学研究科教授）

17:20「学校保健教育や健康教育における多職種連携、社会的要因等の個人の特性を考慮した学校保健教育、専門家への相談や早期の治療を受けやすい社会環境づくりや偏見差別の打破、誰一人取り残さない健康づくり（仮）」

高橋　浩之（放送大学千葉学習センター所長／千葉大学名誉教授）

17：50　総合討論

18：30　閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 14

公開シンポジウム
「人口減少社会における小規模分散型社会の実現－地域総合農学の視点から－」
の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会

２．共　催：なし

３．後　援：日本生物環境工学会、農村計画学会

４．日　時：令和７（2025）年６月６日（金）13：00 ～ 16：00

５．場　所：オンライン開催

６．一般参加の可否：可
　一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
2024 年 5 月 29 日に食料・農業・農村基本法が四半世紀ぶりに改正された．そこでは、農業生産に対する人口減少の厳しい影響を踏まえ、国内農業の方向性として、「生産性の向上」、「付加価値の向上」、「環境負荷低減」が位置づけられた。さらに、農村振興に関しても、人口減少下の中でも「地域社会が維持される」ことを目的とすることが明確化された。こうした農業・農村政策の展開から、今後、人口減少下における農業生産活動の高度化や地域コミュニティの維持を目指した活動が促進されることとなり、「小規模分散型社会の実現」が求められているといえる。本シンポジウムは、地域総合農学の視点から、人口減少社会における小規模分散型社会の実現に貢献する技術や政策などを紹介するとともに現場での課題などを取り上げ、農業・農村の未来を考える機会として開催する。

９．次　第：
13:00　開会挨拶
仁科　弘重（日本学術会議連携会員／愛媛大学学長）
13:15　『小規模分散型社会における”多様と分散”の農村空間デザイン』
武山　絵美（日本学術会議連携会員／京都大学大学院地球環境学堂教授／愛媛大学大学院農学研究科教授）
13:30　『気候変動時代における農山村の持続的発展』
加藤　千尋（日本学術会議連携会員／弘前大学農学生命科学部地域環境工学

科准教授）

13:45　『自立型農村地域の構築を目指したスマート農業の導入のあり方』
武藤　由子（日本学術会議連携会員／岩手大学農学部食料生産環境学科准教授）

14:00　『水害の軽減を志向した農村インフラの活用事例』
弓削　こずえ（日本学術会議連携会員／佐賀大学農学部教授）

休憩（15 分）（14：15～14：30）

14:30　『農山村におけるグリーン化の推進』
荊木　康臣（日本学術会議連携会員／山口大学農学部長・大学院創成科学研究科教授）

14:45　『小規模分散型社会の実現を可能にする再生可能エネルギーの活用事例』
大橋　敬子（日本学術会議連携会員／玉川大学農学部先端食農学科教授）

15:15　『人口減少下の農村問題と政策』
小田切　徳美（日本学術会議連携会員／明治大学農学部教授）

15:30　コメント・視聴者からの質疑応答

15:50　閉会挨拶
後藤　英司（日本学術会議第二部会委員／千葉大学大学院園芸学研究院教授）

司会：　弓削　こずえ（日本学術会議連携会員／佐賀大学農学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 15

公開シンポジウム
「デザインをめぐる知の構築と社会的理解に向けて」
の開催について

１．主　催：日本学術会議土木工学・建築学委員会デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会

２．共　催：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本都市計画学会、一般社団法人日本計画行政学会、公益社団法人日本造園学会（全て予定）

３．後　援：なし

４．日　時：令和７（2025）年６月６日（金）13：00 ～ 17：10

５．場　所：オンライン開催

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
近年、社会課題の解決をめぐる議論において、「デザイン」というキーワードが重要視されている。デザインは、物理的な空間やモノの造形にとどまらず、システムや人と人との関係性といった不可視な領域にまで広がり、さまざまな文脈で活用される概念となっている。しかし一方で、デザインは依然として「形態意匠上の付加価値」として矮小化され、特に公共分野においてその重要性が十分に理解されていない現状がある。
本シンポジウムでは、デザインの概念と意義を広く俯瞰するとともに、地域社会に生きる人々のエンパワーメントを支える環境、空間、インフラの創造におけるデザインの役割を再検討する。さらに、デザインが持つ知としての価値を探り、その社会的理解を深めるための議論を展開する。

９．次　第：

司会
小野　悠（日本学術会議連携会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

13:00　趣旨説明と解題
「都市・地域をめぐるデザインへの問い」
佐々木　葉（日本学術会議第三部会員／早稲田大学理工学術院教授）

13:20　「ランドスケープの視点から－未来の風景を共有する（仮）」
片桐　由希子（日本学術会議連携会員／金沢工業大学工学部環境土木工学科准教授）

13:40　「デザインとは？デザイン史、芸術文化史研究の視角から（仮）」
近藤　存志（日本学術会議連携会員／東洋大学福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科教授）

14:00　「イギリスのデザイン政策と都市空間（仮）」
坂井　文（日本学術会議連携会員／東京都市大学都市生活学部教授）

14:20　「イタリアンデザイン『PROGETTAZIONE プロジェッタチオーネ』および『CASA DI QUARTIERE 地区の家』について（仮）」
斎尾　直子（日本学術会議連携会員／東京科学大学環境・社会理工学院建築学系教授）

14:40　「公共調達と土木デザイン（仮）」
久保田　善明（富山大学学術研究部都市デザイン学系教授）

15:00　「建築設計の選定について（仮）」
小野田　泰明（日本学術会議連携会員／東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授）

15:20　「公共とデザイン（仮）」
石塚　理華（一般社団法人公共とデザイン共同代表）

休憩（10 分）（15：40～15：50）

15:50　総合討論
コーディネーター：佐々木　葉（日本学術会議第三部会員／早稲田大学理工学術院教授）
パネリスト：講演者７名
16:50　閉会挨拶

田井　明（日本学術会議連携会員／福岡工業大学社会環境学部社会環境学科准教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 16

公開シンポジウム
「これからの森林管理－木材生産と生態系保全の両立を目指して－」
の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会林学分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会
合同生態科学分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会

２．共　催：一般社団法人日本森林学会

３．後　援：一般社団法人日本木材学会、一般社団法人日本生態学会

４．日　時：令和７（2025）年６月７日（土）13：00 ～ 15：30

５．場　所：オンライン開催

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
森林は、地球温暖化対策と生物多様性保全の役割が期待されている。地球温暖化対策としては、森林の吸収源機能とともに木材による化石資源の代替機能も求められており、「都市の木質化」も進められている。生物多様性保全については、木材生産との両立を目指した「保持林業」も試みられており、森林環境税・森林環境譲与税や森林経営管理制度が導入され、カーボンオフセットを目的とした J－クレジット制度も始まるなど、森林管理に対する社会的要請や経済的環境も変わってきている。TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）や TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）など、企業活動に起因する気候変動や生物多様性損失に関連する情報開示を企業に求める動きも高まっている。
森林・林業基本計画（令和３年６月）では、我が国の森林の約４割に相当する戦後に造成された人工林（令和４年３月末現在 1009 万 ha）の多くが、資源として利用可能な段階を迎えていることから、自然的・社会的条件を勘案しつつ、将来的には 660 万 ha に減じ、将来にわたり森林が多面的機能を高度に発揮していくため、様々な成育段階や樹種がバランス良く配置された望ましい森林の姿へと誘導する方針が示されている。人工林面積の 64％を私有林が占めており、どの人工林を経済林として維持するか、どの人工林を環境林に誘導するかなどの判断が、私有林を中心に進められることになる。現状では、人工林経営の採算性が低いことから、再造林放棄地の増加や林業就労者の減少、特に造林作業の担い手の減少、中山間地域のコミュニティの衰退などが、将来の森林資源造成の課題となっ

ている。本シンポジウムでは、森林に対する社会的要請に応えるための森林管理のあり方について、計画や技術、経済の観点から考え、社会実装するための議論の場としたい。

９．次　第：

司会進行：井上　真理子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所多摩森林科学園教育的資源研究グループ長）

13:00　開会挨拶

杉山　淳司（日本学術会議第二部会員／京都大学大学院農学研究科教授）

13:05　趣旨説明

丹下　健（日本学術会議連携会員／東京大学特命教授）

13:15　「森林管理のあり方をゾーニングから考える：木材生産と生態系保全を両立させる経済林と環境林の区分の考え方」

田中　和博（京都府立大学名誉教授）

13:45　「森林管理のあり方を森林施業から考える：保持林業－木を伐りながら生き物を守る－」

山浦　悠一（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所四国支所主任研究員）

14:15　「森林管理や自然資本を企業経営や金融から考える：TNFD の動きに伴う企業環境の変化や企業への波及」

藤田　香（東北大学グリーン未来創造機構／大学院生命科学研究科教授）

14:45　ディスカッション

ファシリテータ：森本　淳子（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院農学研究院教授）

15:25　閉会挨拶

森　章（日本学術会議連携会員／東京大学先端科学技術研究センター教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 17

公開シンポジウム
「第２回「ケア・イノベーションの最前動向」」
の開催について

１．主　催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会（予定）、健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会（予定）、健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会（予定）

２．共　催：一般社団法人日本看護系学会協議会

３．後　援：公益社団法人日本看護科学学会、一般社団法人日本建築学会ケア・サイエンスと建築WG、障害学会、人間・環境学会、一般社団法人日本医療･病院管理学会、一般社団法人日本サイコオンコロジー学会、一般社団法人日本社会福祉学会、認定特定非営利活動法人ささえあい医療人権センターＣＯＭＬ、当事者研究ネットワーク、特定非営利活動法人ＤＰＩ日本会議（以上全て予定）

４．日　時：令和７（2025）年６月 22 日（日）13：00 ～ 16：00

５．場　所：オンライン開催

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
少子高齢・人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。我々が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多くの学問分野の連携のもと、あらゆる市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉とケアを核とする社会モデルのあり方を模索し、共につくり上げていく学術と教育が連動する活動を意味する。この活動を通して、人々の暮らしにケアサイエンスとその成果を根づかせることで実現する相互支援社会を「ケア共同社会」と呼び、その構築を目標として掲げている。
本シンポジウムは、誰もがケアし、ケアされるケア共同社会の実現に向けて、１）ケアサイエンスとケアの担い手について、２）ケア・イノベーションについて、３）ケアのあり方について、をそれぞれのテーマとする３回のシリーズの第２回目にあたる。これらの連続シンポジウムにより､人間にとってケアをする／されることの意味やケアの双方向性･

重層性など多方面からの考察を行い、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探る。そして、関連する学問分野や実践活動の担い手、制度の担い手など多様な関連主体がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

本第２回シンポジウムでは、第１回シンポジウムの振り返りと参加型アプローチという本分科会の姿勢を確認し、第一部ではセルフケア・コミュニティの構築、第二部ではケアサイエンス方法論的イノベーションとケアする人の育成、第三部ではケアリング・アーキテクチャの構築について話題提供を行う。その後、ケアサイエンスの普及と実装に向けた課題や進め方、目指すところについてのディスカッションを行う。多分野の話題提供者・登壇者及び参加者の皆様との議論を通して、ケアの価値観を共有し、ケアをあたりまえのものとして共に生きる社会をつくり育てていくために講じるべき策について検討する。

９．次　第：

13:00	開会	司　会　森山　美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授） 副司会　山田　あすか（日本学術会議連携会員／東京電機大学未来科学部建築学科教授）
13:05	挨拶	磯　博康（日本学術会議副会長／国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長）
13:10	冒頭	●連続シンポジウムの構成と第１回シンポジウムの振り返り 熊谷　晋一郎（日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授） ●参加型研究 熊谷　晋一郎（日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授）
13:25	第一部	セルフケア・コミュニティの構築 話題提供（各 15 分）
		●「セルフケアの社会実装によるコミュニティの形成」フレイルと介護予防を例に 荒井　秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長） ●Society 5.0 とケア 山川　みやえ（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院医学系研究科統合保健看護科学分野老年看護学准教授）

13:55	第二部	ケアサイエンスの方法論的イノベーションとケアする人の育成 話題提供（各 15 分） ●ケアリテラシー尺度 （調整中） ●ケアする人を育てる （調整中）
14:25	休憩	
14:40	第三部	ケアリング・アーキテクチャの構築（ケア文化の醸成とケアの地域化） 話題提供（各 15 分） ●地域介入研究 五十嵐　歩（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻臨床看護学講座准教授） ●ケアする生活環境をつくるアプローチ 柴田　智広（九州工業大学大学院生命体工学研究科人間知能システム工学専攻教授）
15:10	議論	司　会 山田　あすか（日本学術会議連携会員／東京電機大学未来科学部建築学科教授） パネラー 熊谷　晋一郎（日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授） 荒井　秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長） 山川　みやえ（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院医学系研究科統合保健看護科学分野老年看護学准教授） 五十嵐　歩（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻臨床看護学講座准教授） 柴田　智広（九州工業大学大学院生命体工学研究科人間知能システム工学専攻教授
15:50	まとめ	西村　ユミ（日本学術会議第二部会員／東京都立大学健康福祉学部・大学院人間健康科学研究科教授）
16:00	閉会	

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 18

公開シンポジウム
「昆虫科学はおもしろい～国際昆虫学会議を終えて 未来の昆虫科学者たちへ～」
の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会

２．共　催：日本昆虫科学連合

３．後　援：なし

４．日　時：令和７（2025）年６月 28 日（土）13：00 ～ 17：00

５．場　所：オンライン開催

６．一般参加の可否：可
　一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：

国際昆虫学会議 International Congress of Entomology（ICE）は、ほぼ４年ごとに各国で開催されてきた昆虫科学における最も包括的な国際会議である。令和６（2024）年８月 25 日（日）～30 日（金）の６日間にわたり、日本では２回目の開催となる第 27 回会議が、日本学術会議と日本昆虫科学連合により共同主催された。会場となった国立京都国際会館には 82 の国と地域から 4,041 名（一般参加者を含めると 4,278 名）の参加者が集まった。そして、６つのプレナリー講演に加え、全部で 205 のセッション（口頭 176、ポスター29）が設けられ、2,817 の一般講演（口頭 1,752、ポスター1,065）が行われた。国際昆虫学会議の日本開催によりわが国の昆虫科学のプレゼンスを示すことができ、本会議の評議員には日本から３名が選出された（国際昆虫学会議の評議員は従来、日本からは１名）。そのため、本会議の日本開催の大きな目的の１つを達成できたと考えている。

ところで、国際昆虫学会議を日本に招致した大きな目的はもう１つあり、それは「未来の昆虫科学者を育てる」ということであった。国際昆虫学会議には世界トップクラスの研究者に交えて、数多くの学生や若手研究者、そしてイベントなどを通じて小中高校生も参加した。本会議に参加し、昆虫科学者への志を強くした方がいれば、大変喜ばしいことである。そこで、国際昆虫学会議の熱が冷めないうちに「昆虫科学のおもしろさを伝える」「未来の昆虫科学者を育てる」という開催趣旨のもと、本シンポジウムを提案する。

公開シンポジウム「昆虫科学はおもしろい～国際昆虫学会議を終えて未来の昆虫科学者たちへ～」では、日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会と日本昆虫科学連合活動報告

に引き続き、まずは小野正人氏（第 27 回国際昆虫学会議議長）に、国際昆虫学会議の報告をしていただく。それに引き続く講演会では「昆虫科学のおもしろさを伝える」「未来の昆虫科学者を育てる」という趣旨のもと、国際昆虫学会議の開催にも貢献され、日本の昆虫科学を牽引しておられる５名の方々に話をしていただく。５名の講演者は昆虫科学の多様な分野からジェンダーバランスを意識して選出している（次第参照）。

講演者の方々には、専門家や一般の大人の方はもちろん、未来の昆虫科学者である（小）中・高校生にもある程度理解できて、彼・彼女らが昆虫科学にさらに興味を持てるような講演内容を依頼している。本シンポジウムの開催により、参加者が昆虫科学の魅力を発見、あるいは再確認する機会となることを期待している。

９．次　第：

総合司会：木内　隆史（日本昆虫科学連合事務局長／東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

13:00　開会挨拶・日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告
池田　素子（日本学術会議連携会員／農学委員会応用昆虫学分科会委員長／名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

13:10　日本昆虫科学連合活動報告
阿部　芳久（日本学術会議連携会員／日本昆虫科学連合代表／九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

13:20　第 27 回国際昆虫学会議報告
小野　正人（日本学術会議連携会員／第 27 回国際昆虫学会議議長／玉川大学学術研究所所長）

休憩（13：40～13：50）

講演

◇座長：塩月　孝博（島根大学学術研究院農生命科学系教授）

13:50　「昆虫に学ぶ生きるしくみのおもしろさ－昆虫のリズム」
志賀　向子（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院理学研究科教授）

14:20　「感染症を媒介する昆虫のコントロール～サシチョウバエを例に～」
三條場　千寿（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

休憩（14：50～15：00）

◇座長：高梨　琢磨（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所グループ長）

15:00　「すべてのウイルスが人類の敵！ではない？昆虫ウイルスの植物保護への利用と進化的役割」
仲井　まどか（東京農工大学大学院農学研究院教授）

15:30　「カマキリはなぜ水に飛び込む？昆虫を操る寄生虫の謎に迫る」
佐藤　拓哉（京都大学生態学研究センター准教授）

16:00　「最新技術で見えること：系統学と形態学の現在」
吉澤　和徳（北海道大学大学院農学研究院准教授）
16:30　総合討論
◇座長：大村　和香子（京都大学生存圏研究所教授）
16:50　閉会の挨拶
日本　典秀（日本昆虫科学連合副代表／京都大学大学院農学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 19

公開シンポジウム
「2024 年実施選挙と政党体制」
の開催について

１．主　催：日本学術会議政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、
日本比較政治学会

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：令和７（2025）年６月 29 日（日）14：00 ～ 16：00

５．場　所：オンライン開催

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定なし

８．開催趣旨：
2024 年はアメリカや EU 議会を含め、いわゆる「選挙イヤー」として注目された。BRICS や新たに創設された BRICS の「パートナー国」でも選挙が実施され、その結果により新たな連立政権の構築が必要となるなど、従来の政党体制のあり方の変容をもたらすことにもつながった。
そこで、本企画では BRICS とその「パートナー国」である、インド、南アフリカ、そしてインドネシアの 2024 年選挙とその結果を改めて分析し、そこで観察された課題を本分科会の主要テーマである「民主主義の深化と退行」という観点に照らして比較検討を行うことを目的とする。それぞれの国の政治体制の評価については、従来からもさまざまに行われてきたが、果たして 2024 年実施の選挙は、その結果をもたらした要因を含め、何らかの変化をみることができるのか。３事例を中心として、他地域での動向にも鑑みて比較検討したい。

９．次　第：
14:00～14:05 開会の挨拶・趣旨説明
遠藤　貢（日本学術会議連携会員／東京大学大学院総合文化研究科教授／日本比較政治学会会員）
14:05～15:05 報告

報告１「インドネシアの事例：民主的な選挙、安定した政権交代、民主主義の後退」
川村　晃一（独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所海外調査員／日本比較政治学会会員）
報告２「インドの事例：一強体制の崩壊」
上田　知亮（東洋大学法学部准教授／日本比較政治学会会員）
報告３「南アフリカの事例：一党優位から連立政治へ」
牧野　久美子（独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター主任調査研究員／日本比較政治学会理事）
15:05～15:25 討論
粕谷　祐子（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学法学部教授／日本比較政治学会会員）
馬場　香織（北海道大学大学院法学研究科准教授／日本比較政治学会理事）
15:25～16:00 質疑応答

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 20

公開シンポジウム
「第１４回形態科学シンポジウム「生命科学の魅力を語る高校生のための集い：
分子の視点で解き明かす病気のメカニズム」」
の開催について

１．主　催：日本学術会議基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会

２．共　催：なし

３．後　援：一般社団法人日本細胞生物学会、一般社団法人日本解剖学会、公益社団法人日本顕微鏡学会、日本組織細胞化学会、特定非営利活動法人日本分子生物学会、一般社団法人日本再生医療学会（全て予定）

４．日　時：令和７（2025）年８月 23 日（土）14：00 ～ 17：00

５．場　所：東京大学医科学研究所・講堂（東京都港区白金台 4-6-1）（ハイブリッド開催）

６．一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

７．分科会等の開催：開催予定あり

８．開催趣旨：
生命科学研究に関心を持つ高校生に呼びかけ、生命科学研究の最前線を分かりやすく解説する。また第一線の研究者と高校生が気軽に語り合う場を設け、将来の生命科学研究を担う人材の啓発に資するものとしたい。

９．次　第：
14:00　開会挨拶
渡辺　雅彦（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院特任教授）
講演１
司会　武川　睦寛（日本学術会議連携会員／東京大学医科学研究所教授）
14:05　『ピロリ菌が胃がんを引き起こす仕組み』
畠山　昌則（東京大学名誉教授）
休憩（10 分）（14:45 ～ 14:55）
講演２

司会　清川　悦子（日本学術会議連携会員／金沢医科大学医学部病理学Ⅰ教授）

14:55　『脳の非線形性と心の病：シナプスのほんの小さな変化が心を揺さぶる理由』

林（高木）朗子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター多階層精神疾患研究チームチームリーダー）

休憩（10 分）（15:35 ～ 15:45）

15:45　高校生と研究者の交流会

司会　武川　睦寛（日本学術会議連携会員／東京大学医科学研究所教授）

担当者　澤本　和延（日本学術会議連携会員／名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経科学研究所神経発達・再生医学分野教授）

内匠　透（日本学術会議連携会員／神戸大学大学院医学研究科教授）

寺田　純雄（日本学術会議連携会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科神経機能形態学分野教授）

仲嶋　一範（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学医学部教授）

西　真弓（日本学術会議連携会員／奈良県立医科大学名誉教授／日本新薬（株）社外取締役）

大場　雄介（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院医学研究院教授）

岡田　由紀（日本学術会議連携会員／東京大学定量生命科学研究所教授）

清川　悦子（日本学術会議連携会員／金沢医科大学医学部病理学Ⅰ教授）

粂　昭苑（日本学術会議連携会員／東京科学大学生命理工学院教授）

水島　昇（日本学術会議連携会員／東京大学大学院医学系研究科分子細胞生物学専攻分子生物学分野教授）

濵﨑　洋子（日本学術会議連携会員／京都大学 iPS 細胞研究所教授）

17:00　閉会挨拶

森　和俊（日本学術会議第二部会員／京都大学高等研究院特別教授）

10. 関係部の承認の有無： 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 21

○国際会議の後援（１件）

以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

１．第７回革新的エネルギー材料・プロセス国際会議(IMPRES2025)
主催：IMPRES2025 実行委員会、公益社団法人化学工学会
期間：令和７年 10 月 27 日（月）～10 月 30 日（木）
場所：仙台国際センター
参加予定国数：10 か国
申請者：IMPRES2025 実行委員会実行委員長　北川　尚美

※国際委員会３月 28 日承認、同国際会議主催等検討分科会３月 17 日承認

提案 22

○国内会議の後援（３件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

１．日本地球惑星科学連合 2025 年大会
主催：公益社団法人日本地球惑星科学連合
期間：令和７年５月 25 日（日）～ ５月 30 日（金）
場所：幕張メッセ（国際会議場及び国際展示場ホール７，８）（オンライン併用）
参加予定者数：約 8,400 名（現地：約 7,100 名）
申請者：公益社団法人日本地球惑星科学連合　会長　ウォリス・サイモン
審議付託先：第三部
審議付託結果：第三部承認

２．2025 年度「土と肥料」の講演会
主催：一般社団法人日本土壌肥料学会
期間：令和７年５月 17 日（土）
場所：東京大学山上会館
参加予定者数：約 100 名
申請者：一般社団法人日本土壌肥料学会　会長　藤原　徹
審議付託先：第二部
審議付託結果：第二部承認

３．第 14 回 JACI/GSC シンポジウム
主催：公益社団法人新化学技術推進協会
期間：令和７年７月 15 日（火）～ ７月 16 日（水）
場所：一橋大学一橋講堂（一部オンライン併用）
参加予定者数：約 700 名
申請者：公益社団法人新化学技術推進協会　会長　森川　宏平
審議付託先：第三部
審議付託結果：第三部承認

参考

○今後の予定

●幹事会

第３８３回幹事会	第１９４回総会期間中に開催予定	
第３８４回幹事会	令和７年５月３０日（金）	１４：３０から
第３８５回幹事会	令和７年６月３０日（月）	１４：３０から
第３８６回幹事会	令和７年７月２８日（月）	１４：３０から
第３８７回幹事会	令和７年８月２９日（金）	１４：３０から
第３８８回幹事会	令和７年９月２６日（金）	１４：３０から

●総会

第１９４回総会　　令和７年４月１４日（月）～１６日（水）